

NEWS LETTER

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニュースレター No. 127

－目次－

1. 2024年度地域安全学会大会（総会・研究発表会（春季））のご案内 1
2. 地域安全学会研究発表会(春季)「優秀発表賞」募集のお知らせ 4
3. 第55回（2024年度）研究発表会（秋季）査読論文の募集と投稿方法 5
4. 東日本大震災連続ワークショップ2024 in 浪江町 7
5. 2023年度地域安全学会技術賞審査報告 11
6. 寄稿
災害とまち：「音」「声」「文化」にまつわる雑考
南 貴久（東京大学） 12
7. 地域安全学会からのお知らせ
(1) 地域安全学 夏の学校2024－基礎から学ぶ防災・減災－ 16
(2) 書籍紹介コーナーについて **New!** 18



地域安全学会ニュースレター
ISSS News Letter

No. 127

2024. 4

1. 2024年度地域安全学会春季研究発表会のご案内

地域安全学会春季研究発表会実行委員会

-
- (1) 第54回(2024年度)地域安全学会研究発表会(春季)
 - (2) 2024年度地域安全学会総会
 - (3) 中越大震災20年事業・公開シンポジウム
 - (4) 巡検のご案内
-

2024年度地域安全学会春季研究発表会・総会・公開シンポジウムは、2004年新潟県中越地震から20年の節目において、当時の激甚な被災地となった小千谷市を会場として、小千谷市との共催により開催します。奮ってご参加ください。

※総会・研究発表会の全部または一部、懇親会に参加をご予定の方は、必ず個人ごとに事前登録フォーム <https://forms.gle/D6QRc9kaF44xjxEr5> にてお申し込みください（発表申し込みは締め切りました）。
詳細は学会 Web サイト「春季研究発表大会」のページ http://isss.jp.net/?page_id=81 へ

(1) 第54回(2024年度)地域安全学会春季研究発表会

日 時：2024年 5月24日(土) 12:30～17:00

- 1) 令和6年能登半島地震特別セッション 12:30～13:30
- 2) 一般論文セッション 14:00～17:00

会 場：小千谷市総合産業会館 サンプラザ（新潟県小千谷市城内1丁目8-25）

※ 当日の発表プログラムは、今後、地域安全学会Webサイト「春季研究発表大会」のページ http://isss.jp.net/?page_id=81 に掲載します。

※ **上記の時刻は発表数により変更が生じる場合もあります**ので、時間に余裕を持ってお越しください。

(2) 2024年度地域安全学会総会

日 時：2024年 5月24日(金) 17:15～18:45

会 場：小千谷市総合産業会館 サンプラザ・大ホール（新潟県小千谷市城内1丁目8-25）

韓国災害情報学特別講演および地域安全学会との協定締結式
地域安全学会「技術賞」「年間優秀論文賞」「論文奨励賞」「優秀発表賞」授与式
地域安全学会「技術賞」受賞記念講演

懇親会：

日 時：2024年 5月24日(金) 19:00～21:00

会 場：ホテルプラザ片山（小千谷市本町1丁目7-3）

会 費：6,000円程度（飲み放題、小千谷市特産のメニューあり）

定 員：100人程度まで（事前先着申込制 参加登録フォーム <https://forms.gle/D6QRc9kaF44xjxEr5>）

締 切：定員に到達次第受付終了（最終期限 4月26日(金)）

※ 新型コロナウイルス感染症をめぐる今後の情勢によっては、開催中止となる場合もあります。

(3) 中越大震災20年事業・公開シンポジウム「震災から20年、あのとき・いま・これからの小千谷市」

主 催：一般社団法人地域安全学会

共 催：小千谷市

日 時：2024年 5月25日(土) 10:00~12:00

会 場：小千谷市総合産業会館 サンプラザ・大ホール
(新潟県小千谷市城内1丁目8-25)

内 容：

1) 挨拶

主催者挨拶 田中 聡 一般社団法人地域安全学会会長・常葉大学 教授

2) 基調講演

宮崎 悦男 氏 (小千谷市 市長)

3) 講演

重川 希志依 氏 (常葉大学 名誉教授)

澤田 雅浩 氏 (兵庫県立大学 准教授)

ディスカッション コーディネータ 佐藤 翔輔 氏 (東北大学 准教授)

4) 閉会挨拶 小山 真紀 一般社団法人地域安全学会副会長・岐阜大学 准教授

(4) 巡検

日 時：2024年 5月25日(土) 12:45~16:30

行 程：12:45 小千谷市総合産業会館 サンプラザ出発

おらたる (長岡市山古志)、木籠 (水没集落)、16時30分ごろ長岡駅解散

定 員：60人まで (事前先着申込制：後述の参加登録フォームでお申し込みください)

参加費：5,000円程度 (お弁当代込み)

■要事前登録

参加予定の方は、個人ごとに事前参加登録をお願いします。4月26日(金)までに下記URLの参加申込用フォームにてご登録ください。(発表申し込みは締め切りました)

なお、懇親会と巡検への参加については、先着順になりますのでお早めにお申し込みください。

— 参加登録フォーム URL —

<https://forms.gle/D6QRc9kaF44xjxEr5>

※ クリックしても登録フォームが開かない場合は、上記の URL をブラウザのアドレスバーにコピー&ペーストしてアクセスしてください。

* ご登録いただきました内容は、春季研究発表大会関連の連絡・事務のみに使用させていただきます。

(5) 中越大震災 20 年事業・公開シンポジウム

「震災から 20 年、あのとき・いま・これからの小千谷市」

今年の 10 月 23 日で、激甚な被害をもたらした新潟県中越地震から 20 年を迎えます。

地域安全学会は、「生活者の立場から地域社会の安全問題を考え、地域社会の安全性の向上に寄与する」、「自然科学ばかりでなく、人文社会科学を含めた多方面の協力で地域の安全問題を考える」という視点から防災対策のあり方についての実践的な研究の深化に取り組んでいます。

地域安全学会では先述の学会設立の趣旨をふまえ、当時の激甚な被災地となった小千谷市を会場として、小千谷市との共催により公開シンポジウムを企画しました。

シンポジウムのテーマは、「震災から 20 年、あのとき・いま・これからの小千谷市」とし、当時の災害対応と、被災からの復旧・復興、そしてこれからの小千谷市に焦点を当て、人口減少化における災害対策、復興まちづくり、教訓継承のあり方や課題について考えます。

日時：2024年 5月25日(土) 10:00～12:00

会場：小千谷市総合産業会館 サンプラザ・大ホール（新潟県小千谷市城内1丁目8-25）

参加：参加費無料・事前申込不要

主催：一般社団法人地域安全学会

共催：小千谷市

1) 挨拶

主催者挨拶 田中 聡 一般社団法人地域安全学会会長・常葉大学 教授

2) 基調講演

宮崎 悦男 氏（小千谷市 市長）

3) 講演・ディスカッション

重川 希志依 氏（常葉大学 名誉教授）

澤田 雅浩 氏（兵庫県立大学 准教授）

ディスカッション コーディネータ 佐藤 翔輔 氏（東北大学 准教授）

4) 閉会挨拶 小山 真紀 一般社団法人地域安全学会副会長・岐阜大学 准教授

2. 地域安全学会研究発表会（春季）「優秀発表賞」募集のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表・オンライン口頭発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる2024年5月に実施される第54回（2024年度）地域安全学会研究発表会（春季）一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようにお願いします。

■「優秀発表賞」応募登録の方法

- ・第54回（2024年度）地域安全学会研究発表会（春季）一般論文募集の「（1）投稿要領」に従い、登録時点でWebフォームの書式に則り、「優秀発表賞」への「応募の有無」をご回答ください。
- ・審査を希望されない方も、必ず「応募の有無」欄で「応募しない」旨ご回答ください。

■授賞対象者

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）もしくはオンライン研究報告会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表・オンライン口頭発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

3. 第55回(2024年度)研究発表会(秋季)査読論文(地域安全学会論文集 No. 45)の募集と投稿方法

2024年4月
地域安全学会 学術委員会

2024年5月3日(金)正午12:00までの期間内に、地域安全学会ホームページにある論文募集案内の「オンライン論文投稿・査読システム」を通じて、論文投稿を行って下さい(https://iss.jp.net/?page_id=85)。

研究発表会論文につきましては、筆頭著者1名につき1本しか投稿できません。また本論文は秋に開催される地域安全学会研究発表会での発表を義務づけております。

査読は、カラー原稿を前提として行います。なお、再録、印刷される冊子体論文集はすべて白黒印刷とします。また、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承下さい。

また、2009年度より審査付の論文集(電子ジャーナル)を発行しております。これに伴い、第二次審査において採用とならなかった論文のうち、一部の修正により採用となる可能性があると認められるものは、著者が希望すれば、再度修正・審査を行い、審査の結果、採用となれば地域安全学会論文集 No. 46(電子ジャーナル)(2025年3月発行予定)に掲載します。この場合、修正は1回のみとし執筆要領は査読論文の執筆要領に準拠します。

2020年の第47回研究発表会(秋季)査読論文(地域安全学会論文集 No. 37)より、**査読用論文原稿には氏名、所属および謝辞を記載することとなりました。投稿する際には、ホームページ上のテンプレートを必ずご使用下さい。**

会員各位の積極的な研究発表会査読論文の投稿をお願いします。

1. 日程等

- (1) 研究発表会論文申込と査読用論文原稿の投稿期限(オンライン論文投稿・査読システム)
2024年5月3日(金)12:00(正午、時間厳守)
※本学会のオンライン論文投稿・査読システムでは、1度投稿すると修正できません。十分に確認の上で投稿ください。
※また1投稿あたり1件の投稿料が必要です。同じ論文を複数回投稿することがないようにご注意ください。
- (2) 第一次審査結果の通知
2024年7月下旬
- (3) 修正原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)
2024年8月16日(金)12:00(正午、時間厳守)
- (4) 「地域安全学会論文集 No. 45」への登載可否(第二次審査結果)の通知
2024年9月上旬
- (5) 登載決定後の最終原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)
PDFファイルとWordファイルのオンライン上での提出
2024年9月20日(金)12:00(正午、時間厳守)
- (6) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表(論文奨励賞の審査を兼ねる)
月日:2024年11月16日(土)~11月17日(日)、予備日11月15日(金)
※土日での開催です
場所:静岡県地震防災センター(予定)
- (7) 論文賞・年間優秀論文賞・論文奨励賞授与式(次年度総会に予定)

2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1万円/編
 - ①期限:2024年5月8日(水)までに、②宛てに振り込んで下さい。
 - ②振込先:りそな銀行 市ヶ谷支店
口座名:一般社団法人地域安全学会 査読論文口座
口座種別:普通口座
口座番号:1745807
振込者名:受付番号+筆頭著者名(例:2024-000 チイキタロウ)
 - ③その他:査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。
<投稿論文に形式上の不備があり、実際の査読が実施されない場合も返金いたしません>

3. 登載料の納入

- (1) 登載料 (CD-ROM 版論文集 1 枚 + 冊子体論文集 1 冊を含む)
6 ページは 2 万円 / 編, 10 頁を限度とする偶数頁の増頁については, 5 千円 / 2 頁.
- (2) 登載料の納入方法
2024 年 9 月 25 日 (水) までに, 上記 2. (1) - ② の振込先に振込んで下さい.

4. 論文奨励賞

- (1) 論文奨励賞の対象の発表者については, 研究発表会の初日 (2024 年 11 月 16 日, 予備日 11 月 15 日) に発表をいただくこととします. 該当する発表者にご留意下さい.
- (2) 論文奨励賞の対象は, 下記となります. 以下審査要領より抜粋.
「地域安全学会論文奨励賞」の授賞対象者は, 「地域安全学会論文集」に掲載された「研究発表会 (秋季) 査読論文」の筆頭著者でかつ研究発表会で発表を行なった者であり, 研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある 40 歳 (当該年度 4 月 1 日時点) 未満の者とする. ただし, 実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある. 再受賞は認めない.

5. その他の注意事項

- (1) 執筆要領テンプレートの入手方法
「論文集の執筆要領」は, 電子ファイル「論文集の執筆要領と和文原稿作成例」(テンプレート) が, 地域安全学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) にありますので, 必ず最新のテンプレートをご利用下さい. なお, 2020 年の第 47 回研究発表会 (秋季) 査読論文 (地域安全学会論文集 No. 37) より, 査読用論文原稿には氏名, 所属および謝辞を記載することとなりましたので, ご注意ください. 詳細につきましては執筆要領をご参照下さい.
- (2) 申込だけで原稿が未提出のもの, 査読料の払い込みのないもの, 投稿論文が執筆要領に準じていないもの, および期限後の電子投稿は原則として受理できません.
- (3) オンライン論文投稿は 1 論文につき 1 度しかできません. 締切までに修正を加えて再投稿をすることができませんので, 必ず確認の上, 完成原稿を投稿してください.
- (4) 投稿時には, ホームページにある「査読論文投稿チェックリスト」を確認した上で投稿してください. なおチェックリストの提出は必要ありません.
- (5) 「冊子体論文集」は, 最終原稿ファイル (PDF 形式) の白黒出力を掲載します. 原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります. しかし, 「冊子体論文集」に添付される「CD-ROM 版論文集」には, カラー図版に関する制限はありません.

会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては, 学術委員会にて論文 1 編あたり 2 名の査読者を, 原則として会員内より選出し, 査読依頼を e-mail で送信いたします. なお, 2018 年の第 43 回研究発表会 (秋季) 査読論文から, 「オンライン論文投稿・査読システム」を使用して, 査読業務 (論文ダウンロードから査読結果の入力まで) を行なっていただきますので, ご留意下さい.

地域安全学会の会員各位におかれましては, 学術委員会より査読依頼が届きましたら, ご多用中のことと存じますが, ご協力の程, よろしくお願い申し上げます.

4. 地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ 2024 in 浪江町 (2024年8月9-10日開催)

2011年3月11日に発生した震災により東北地方から関東地方に至る多くの沿岸部が被災し、各地で復興に関する取り組みが進められています。わが国に甚大な影響を与えている東日本大震災から、どのような教訓を得るのか。研究を通じて、今後の復興に対してどのような知見を与えることができるのか。地域安全学会は、東日本大震災を契機とした将来的な防災と復興について議論を深めていくことを目的として、2012年より「東日本大震災連続ワークショップ」を開催してきました。被災から復興までには長い年月がかかります。時間の経過とともに異なる復興の各時点において、皆様から持ち寄っていただいた話題を題材とし、ワークショップの中で情報共有と今後の地域防災に向けての知見を得たいと考えています。それらを数年にわたり継続しながら、様々な被災地の方々との交流を通して、実施していきたいという趣旨で企画を進めて参りました。東日本大震災連続ワークショップはこれまでに、いわき市、大船渡市、宮古市、気仙沼市、石巻市、釜石市、南三陸町、南相馬市、オンライン開催、1回の中止を経て、名取市、陸前高田市と岩手県、宮城県、福島県の各自治体を会場としてきました。第12回目となる2024年のワークショップは、夏に福島県双葉郡浪江町を会場として開催されます。

今回のワークショップでは、震災から13年が経過した時点における皆様からの研究成果を持ち寄っていただき、テーマに即した議論を進めるとともに、浪江町の復興状況についての見学会を予定しています。また基調講演として浪江町からのご報告、また地域安全学会会員から浪江町で取り組んだ研究に関して報告してもらい、参加者の皆様とともに意見を交換する場を設けたいと考えています。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

- アブストラクト締切：2024年6月14日（金）17時（Google Form）※詳細は次々頁参照
- 論文原稿締切：2024年6月28日（金）17時（eメール送付）※詳細は次々頁参照
- 参加申し込み締切：2024年6月28日（金）17時（Google Form）※詳細は次頁参照
- ワークショップ：2024年8月9日（金）～10日（土）
- 会場：浪江町地域スポーツセンター（福島県双葉郡浪江町権現堂下馬洗田5-2）

JR常磐線「浪江駅」から徒歩5分

※宿泊ホテルの斡旋はございません。浪江駅周辺の宿泊施設を各自ご予約ください。

1日目 8月9日(金)

各自現地へ移動

13:00 受付開始

13:30 開会

講演会

1) 浪江町の復興と防災の取組について(仮)

浪江町役場 市街地整備課 F-REI 立地室および防災安全係

2) 原発事故被災地の歴史・文化の継承の課題

国文学研究資料館 教授 西村 慎太郎 氏

研究発表会

17:30 閉会

18:00 懇親会(※研究発表会場周辺)

参加費: 正会員/非会員 6,000円、学生会員 3,000円

※参加者数によって変更の可能性あり

2日目 8月10日(土)

現地見学会(協力: 浪江町)

9:00 浪江駅前出発、バス移動

見学予定先 浪江町防災交流センター、浜通りデザインセンター、太平山霊園、
棚塩産業団、道の駅なみえ 他

12:00 見学会終了、解散

【スケジュールは若干の変更の可能性があります。HP等で随時お知らせします。】

■ 参加費

- 講演会、研究発表会: 無料
- 現地見学会: 2,000円

※参加者数によって変更の可能性あり

■ 各種参加費の徴収方法について

大会当日受付にて学会事務局で徴収します。現金のみ。

■ 懇親会および現地見学会申し込みフォーム(6/28までにお申し込みください):

<https://forms.gle/BjCjULtMttH1smG76>

※アブストラクト登録とは異なるフォームです

東日本大震災連続ワークショップ2024 in 浪江 論文等募集

スケジュール

アブストラクト登録： 2024年6月14日（金）17時（Google フォーム登録） 締切
論文原稿送付： 2024年6月28日（金）17時（E-mail 送付） 締切
研究発表会： 2024年8月9日（金）午後

アブストラクト登録

ワークショップの趣旨に鑑み、投稿論文は東日本大震災に関連する内容としてください。
また、着想段階、調査段階、のように研究が必ずしも完結していないものでも歓迎します。

- (1) 登録フォーム（ログイン不要）<https://forms.gle/bjbZmKPfbY6MCPPr57>
※参加申し込みとは異なるフォームです
- (2) アブストラクト登録の内容：
 - ・ 筆頭著者 氏名・所属・メールアドレス・電話番号
 - ・ テーマ別番号（下記①～⑧からひとつ選択）
 - ・ 論文題目
 - ・ アブストラクト（論文概要）250字以内
 - ・ 連名著者がいる場合はその氏名・所属

テーマ別番号：①組織の対応、②避難所、応急仮設住宅、恒久住宅、③復旧・復興、④経済被害、⑤人的被害、⑥物的被害、⑦防災教育、⑧社会調査・エスノグラフィー、⑨その他

登録後アブストラクト審査を行い、採否を事務局よりお知らせします

論文原稿

- (1) 論文形式：「研究発表会（春季）一般論文」の要領に準ずるものとし、学会のホームページ（www.issj.info）に掲載の一般論文用 MS-Word テンプレートをダウンロードの上、利用してください。査読論文用テンプレートではありませんのでご注意ください。
- (2) A4 版、4 ページまたは 6 ページ、PDF ファイルに変換したものを E メールにて投稿してください。投稿された PDF ファイルを取りまとめ論文集（PDF）を発行します。
- (3) 論文テンプレートのダウンロード先
http://issj.jp.net/issj-site/wp-content/uploads/2013/06/ippan_haru_template.dot

- (4) フォーマットと著しく異なる原稿、誤字・脱字等がある原稿は著者に修正を依頼することがありますので、原稿提出後にもご対応できるようお願いいたします。

投稿料の納入

・投稿料：2,500 円/ページ（4 ページ：10,000 円、6 ページ：15,000 円）

・投稿料の納入方法

① 期限：2024 年 6 月 28 日（金）までに振り込んでください。

② 振込先：

銀行：りそな銀行 市ヶ谷支店（店番号：725）

口座名：地域安全学会 ワークショップ口座

口座種別・番号：普通預金 1745823

振込者名：受付番号+筆頭著者氏名

③振込の際には、登録受理メールにて返信された受付番号を筆頭著者氏名の前に入力してください。

④査読論文や春季研究発表会一般論文などの振込口座とは異なりますのでご注意ください。

論文集

ワークショップ当日までに論文集（PDF）のダウンロード先をお知らせします。筆頭著者には現地にて1冊贈呈いたします。学会 HP にも論文集（PDF）は掲載予定です。

お問い合わせ

地域安全学会東日本大震災特別研究委員会（担当：生田）

E-mail：311EQ-Tsunami@isss.info

5. 2023年度地域安全学会技術賞審査報告

地域安全学会 表彰委員会

本年度で17回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、1件の応募があり、2024年3月に下記の審査要領に基づき審査が行われました。審査委員9人による厳正な審査の結果、以下の1件に授賞することを決定いたしました。ここに報告させていただきます。

- ・三浦弘之（広島大学大学院先進理工系科学研究科）、村田雄亮（広島大学）、若狭弘幸（広島大学・あいおいニッセイ同和損保）、多嘉良朝恭（あいおいニッセイ同和損保）「リモートセンシング技術と保険データを用いた台風による建物損害額早期推計技術の開発」

■ 「地域安全学会技術賞」の審査要領（抜粋）

1. 授賞対象者

「地域安全学会技術賞 候補業績募集要領」に基づき応募された「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象とする。

2. 審査方法

- (1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長から構成される技術賞審査会が審査を行う。
- (2) 表彰委員会委員長は、技術賞候補の応募期日後に三分の二以上の構成員を召集し、技術賞審査会を開催する。
- (3) 第一次技術賞審査会では、応募状況の報告、応募書類の形式審査、審査方法の確認、および技術賞選定に関する審議と決定を行う。
- (4) 審査は、当該技術の①実績、②有用性・実用性、③革新性・新規性、④一般性・汎用性、および⑤将来性・展開性を考慮した以下の手順に従い、行われる。
- (5) 各審査員は評価シートを用いて、各々の候補技術を上記①から⑤の評価項目に基づき総合的に評価する。そして、地域安全学会技術賞にふさわしい技術を選定する。
- (6) 表彰委員は、すべての審査員により提出された評価シートに基づき、技術賞受賞候補を選定する。
- (7) 第二次技術賞審査会で技術賞受賞候補について審議を行い、理事会の承認のうえ、受賞技術を決定する。
- (8) 審査の実施細目は別途定める。

6. 寄稿

災害とまち：「音」「声」「文化」にまつわる雑考

人と防災未来センター 研究部 研究員
南 貴久

前号(No.126)の塩崎さんからご指名をいただき、寄稿させていただくこととなった。塩崎さんと同様、私も都市計画やまちづくりをバックグラウンドとし、近年は水害避難や防災教育に関心をもって研究をしている。

塩崎さんは下北沢のまちの不思議な魅力について書かれていた。私も自身に縁のある2つの“まち”について触れることから始めたい。

私はこの4月、長年お世話になった東京大学の加藤孝明研究室を離れ、神戸市の「人と防災未来センター」の研究員となった。私が住む場所として選択したのは、同市兵庫区の新開地エリアである。新開地のまちは、明治末期に旧湊川を埋め立てた跡地に誕生し、かつては芝居小屋や映画館が軒を連ね、「東の浅草、西の新開地」と称される一大歓楽街であった。しかし、高度成長期以降、市の中心機能が三宮方面に移転し、まちは急速に衰退。「こわい、汚い、暗い」といった悪いイメージの街になってしまった。さらに追い打ちをかけるように、阪神・淡路大震災の被災を経験。そこで立ち上がった住民らにより、音楽祭・映画祭の開催やまちなみの形成など、文化・芸術の復興を目指したまちづくりが行われている。

一方、私は東京の葛飾区新小岩地区のまちづくりの活動に長らく参加させていただいている。新小岩は荒川や中川といった河川に囲まれた低地帯に位置し、水害リスクの高いエリアである。過去にも1910年(明治43年)の関東大水害や、1947年(昭和22年)のカスリーン台風による被害を受けている。現在では、地元町会でボートを保有して訓練をしたり、浸水しても生活が継続できる市街地

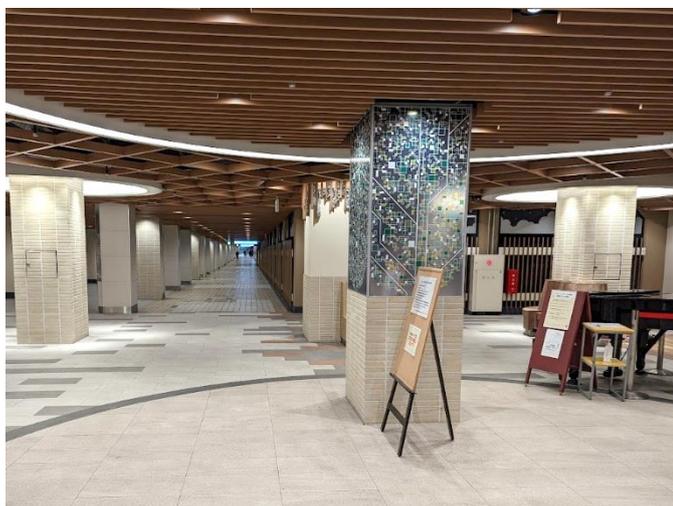


図1 新開地の風景。飲み屋街、マンション、アートなどが混ざり、独特の街並みを形成している。

(浸水対応型市街地)の構想が動き始めるなど、水害への備えが多角的に進むほか、豊かな水辺空間を生かしたまちづくりを住民・行政・学校などが一体になって進めている。

さて、私見だが、この2つのまちにはいくつかの共通点があると感じる。下町情緒溢れる、どこか懐かしさを感じる雑多な雰囲気の商品街や住宅街。それらと新興の高層マンション群との共存。都心部(三宮/東京)まで電車で10分余りという利便性。そして何より、度重なる苦難に見舞われてきたにも関わらず、団結して立ち上がり、街を盛り上げようとする市民の存在——。両者とも、いまは下北沢ほど人気のある街にはなっていないが、これからさらに面白くなっていきそうな“予感”がする。災害への対応力にも何か示唆が得られるかもしれない。2つの街に自ら関わりを深めながら、観察していきたい。

昭和レトロの雰囲気を色濃く残す、新開地駅と高速神戸駅を結ぶ地下街「メトロこうべ」の一角に、一台のストリートピアノが置かれている。地下街にあるため、演奏可能時間は6時から22時と長い。道行く観光客や帰宅中のサラリーマンらが、思い思いに演奏をしては去ってゆく。週末には時折、小さな演奏会も催されるようだ。



私は5歳から高校生までピアノ教室に通っていた。かれこれ10年

図2 「メトロこうべ 中央広場」に置かれたグランドピアノ

以上のブランクがあり、現在では弾ける曲が非常に限られているが、ピアノを前にすると今でも自然と指が動く曲がある。モーツァルトの『ピアノソナタ第16番 K.545』(以下、単に「ピアノソナタ」)——。

この曲には個人的に、不思議なエピソードがある。父方の祖父は、私が10歳のときに亡くなった。晩年、祖父は人工呼吸器を装着していて発話をするのができなかったが、幸いにして健聴だったため、声や音を聞かせて、表情や身振りで反応してもらう、という形式のコミュニケーションをとっていた。

当時、ピアノソナタを練習して祖父に聞かせたいと思っていた私だが、難易度は別としても、1オクターヴの幅を広げることができない当時の私の小さな手では物理的に演奏が不可能であった。祖父の死後、私の夢の中に祖父が現れた。その中で、私はピアノソナタの演奏を祖父に届けることを約束した。

月日は流れ、中学校に入学し、そんな約束も忘れかけていたころ、ピアノ教室の先生に「発表会でこの曲を弾いてみないか？」と提案されたのが、このピアノソナタであっ

た。当時の私のレベルから少し背伸びしたくらいの難易度であり、至極自然な提案だったのだろうが、私には祖父からのリクエストのように思えてならなかった。それ以来、この曲は私の中で特別な一曲となり、祖父の面影とともに両手に記憶をとどめている。

その祖父が亡くなる前日、私は見舞いに行った病院の近くの食堂で、あるニュース映像を見ていた。2003年7月26日、宮城県で震度6強。前震一本震一余震型で推移したこの地震は、1日に震度6弱以上の揺れを3度観測することとなり、俗に「宮城県連続地震」と呼ばれた。祖父の容体に気を揉んでいる両親の傍らで、当時から気象や地象に関心があった私は、その地震の被害を伝える映像に釘付けになっていた。身近な人の死というものが何たるかを、まだ理解していなかったのである。その翌日までは――。

災害とは、こうした“身近な人が死に直面する”という出来事が同時多発的に発生するということである。人と防災未来センターに着任して初めての顔合わせで、センター長の河田恵昭先生は、災害の研究者にとって「被災した方がどれだけ辛く苦しい思いをしたかを理解すること」が最も重要であると説かれた。都市計画の視点で災害をとらえるとき、地域や都市というまとまりで、ともすれば1つの数字に要約された統計データを使って議論しがちだが、その1人1人が直面している状況に思いを馳せることも決して忘れてはいけない。

神戸市は、「ストリートピアノの聖地」と呼ばれているそうである。先述した「メトロこうべ」のものを含め、市内には本稿執筆時点で33台のストリートピアノが設置されている。このきっかけとなったのは、阪神・淡路大震災で被災して閉園した幼稚園で使われていたピアノを、2019年のイベントで設置して好評を得たことだったという。市民とともに震災を経験したピアノが、今を生きる市民の憩いの場となり、さらに文化として根付き始めている。

視点を変えて、2024年3月下旬の能登半島、輪島朝市の火災現場。元日の大地震の被災地に初めて足を踏み入れた私が目撃したのは、あらゆる色彩と音を失った街だった。あまりに惨い光景に言葉も出なかった。そんな街の一角から響いてきたのが、ギターを片手に弾き語りをする男性の「ガンバロウガンバロウ」という明るい歌声だった。調べてみると、その男性は近くでカフェを営む男性であり、



図 3 石川県輪島市の能登半島地震被災現場の一角で、復興応援ソングを歌唱する男性と見物客

この曲『ガンバロウ能登』は、2007年の能登半島地震の際に復興を応援すべく作曲したものだという。男性の周りには地元住民や支援者らが集まり、手拍子をしていた。絶望的な被災現場の光景のなかで、その声の響く空間に、復興に向けた一筋の光を見た。

考えてみると、復興の究極の目的は、こうした「音」や「声」や「文化」といった営みをまちに取り戻すことなのだと思う。建物や構造物（ハード）の復興は、これらを可能にするための手段として重要である。しかし、少子高齢化や過疎化の進むこれからの日本においては、ハードを普通に復興すれば、「音」や「声」や「文化」がひとりですべていってくるというものでは、もはやない。

2024年の能登半島地震からの復興は、こうした過疎地の復興の先進事例となりうる。将来、このまちにどんな「音」や「声」を響かせるのか？どんな「文化」を取り戻すのか？あるいは新たに創造するのか？限られた人とお金のなかで、狙いを定めて取り組んでいく必要があるだろう。

本稿は、まさに能登半島地震の支援に向かう道中で執筆した。これからの日本の課題を考える最初の一步として、能登半島地震の復興に向き合っていきたい。

とりとめのない話題ばかりを書き連ねたが、これも一種の「雑多性」「多様性」と捉えていただくことにして、このあたりで筆を置きたいと思う。

参考文献

- ・「「新開地」まちの変遷」新開地まちづくり NPO. <https://shinkaichi.or.jp/history/>
- ・「神戸ストリートピアノ」 <https://kobe-piano.jp/>
- ・「スタインウェイ社製のピアノが街角で弾ける 宣言明け、神戸で再開」朝日新聞, 2021年11月4日. <https://www.asahi.com/articles/ASPC36SMGPBSPIHB015.html>
- ・「復興に向けた応援ソング「ガンバロウ能登」 自らも被災したカフェ店主が込めた思い」日テレ NEWS NNN, 2024年2月5日. <https://news.ntv.co.jp/category/society/a22214acca6140d6b8b568d4bf116701>

7. 地域安全学会からのお知らせ

(1) 地域安全学 夏の学校 2024 —基礎から学ぶ防災・減災—

1. 趣旨

地域安全学は、災害、防災・減災、復旧・復興、犯罪・防犯、事故、危機管理など、概念や分析・手法が多岐に渡ります。そのため地域安全学を学ぼうとする初学者にとっては、「どこから手を付ければいいのか」悩ましいところがあります。

「地域安全学 夏の学校」は、大学生・大学院生等を主な対象として、一流の研究者の講義や演習を行うセミナーとして開催してきました。例年、複数の先生方を講師としてお招きし、各分野の基礎を「分かりやすく」講義していただいています。今年度は、兵庫県立大学の松川杏寧先生と北陸線案科学技術大学院大学の郷右近英臣先生に御登壇いただく予定です。

初回の2016年度は仙台市（東北大学災害科学国際研究所）で、2回目は東京（同志社大学東京オフィス）で、3回目は神戸市（人と防災未来センター）で、4回目は東京（首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス）、第5回目はオンライン形式で開催しました。第6回目は神奈川大学横浜キャンパスで、第7回目は石川県金沢市（北陸先端科学技術大学院大学・金沢駅前オフィス）でハイブリッド開催いたしました。第8回目は阪神・淡路大震災から30年の節目もあり、神戸市（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）で対面実施し、若手研究者の活発な学びと交流を実現したいと考えております。

このように、これから研究を始めようとする方や、基礎からしっかりと見直したい方に大変おすすめの講座です。初学者であれば実務者・研究者の方々も参加歓迎です。この機会に是非、ご参加ください。

これまでの地域安全学夏の学校の活動紹介

地域安全学夏の学校 HP：<https://anzenanshincommuni.wixsite.com/website>

2019年以前の活動紹介ページ：<https://sites.google.com/site/ssssummerschools/ss2019>

2. 日時・会場

日時：2024年8月23日（金）13:00～18:00

（オプションツアー）24日（土）人と防災未来センター見学ツアー（無料）

※終了時間は参加人数により多少変更になる可能性があります。

※1日目終了後、懇親会を予定しています（学生：2000円、学生以外：4000-5000円）。

感染症対策には万全を期しますが、開催地・会場における感染症対策方針によっては開催がキャンセルとなる場合があります。

会場：兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 人と防災未来センター東館 4階

<https://drg-u-hyogo.jp/>

3. プログラム（暫定版）

2024年8月23日（金）13:00 - 18:00

13:00 - 14:00：参加者間交流会（自己紹介）

14:00 - 15:00：講演会

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・准教授 松川 杏寧

講演タイトル「被災地での犯罪の変遷～阪神から能登まで～」(仮)
15:00 - 15:10 : 質疑応答
15:10 - 15:20 : 休憩
15:20 - 16:20 : 講演会

北陸先端科学技術大学院大学・准教授 郷右近 英臣

講演タイトル「令和6年能登半島地震の広域被害把握」(仮)

16:20 - 16:30 : 質疑応答
16:30 - 16:40 : 休憩
16:40 - 17:40 : 参加者の研究発表 (ポスター)
17:40 - 17:50 : 閉会

※オプションツアーとして、2日目には人と防災未来センターを無料で見学できるツアーを企画しています。普段は入れない裏側も見学できる^⑧ツアーも計画中です！

<研究発表の概要>

- ・研究発表形式はポスター発表になります。
 - ・優れた発表には「地域安全学 夏の学校 2024 優秀発表賞」の授与を予定しています。
- ※表彰式は地域安全学会秋季大会の懇親会にて実施予定です。

4. 申し込み方法

申し込み期限：2024年7月31日(水)

申し込みフォーム：<https://forms.gle/vCpqyP2ap2c1ag7u9>

申し込みに関するお問合せ：fkawami@mail.doshisha.ac.jp (担当：川見)



5. 参加費

無料

共催：兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科

公益財団法人ひょうご震災21世紀研究機構 人と防災未来センター

※本企画は、地域安全学会より助成を受けています。

世話係：松川杏寧，佐藤翔輔，杉安和也，藤生慎，河本尋子，寅屋敷哲也，畠山久，郷右近英臣，落合努，川見文紀，折橋祐希

※その他の「地域安全学 夏の学校 2024」に関するお問い合わせは兵庫県立大学の松川 (anna.matsukawa@drg.u-hyogo.ac.jp) までお願いします。

(2) 書籍紹介コーナーについて **New!**

地域安全学会 広報委員会

2024年3月16日の理事会において、学会員が紹介したい書籍を、学会ニューズレターに年2回の頻度で掲載することが決まりました。書籍の掲載を希望される会員は、以下の情報をお送りください。なお、掲載の可否については理事会での審議を経るため、ご投稿いただいても掲載されないことがありますのでご了承ください。

・書籍名 ※地域安全分野に関するもの。他の学会員にとって有益と思われるのもの。出版後概ね1～2年以内

- ・著者名
- ・出版社
- ・発行日
- ・価格
- ・ISBN
- ・紹介文（400～600字程度）

メールの件名を「書籍紹介コーナー」として、kouhou@isss.info までお送りください。



地域安全学会ニューズレター
第 127 号 2024 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒102-0085 東京都千代田区六番町 13-7
中島ビル 2 階
株式会社サイエンスクラフト内
電話・FAX : 03-3261-6199
e-mail : iss2008@iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。